

# 2024. 1. 14. 町内会の多様な運営スタイルに係る情報交換会

話題提供:これからの時代の多様な町内会運営

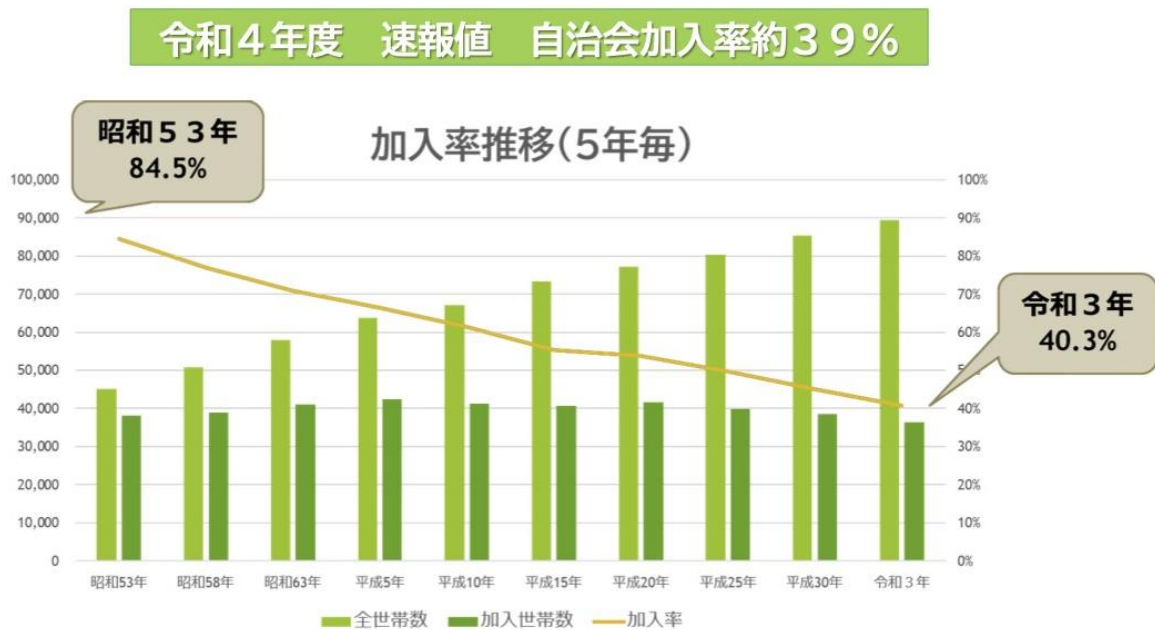
放送大学 玉野 和志

## (1)はじめに

- ・ 多様な運営スタイルにむけて
- ・ 高齢化と担い手の交替を意識して
- ・ 将来に備えて

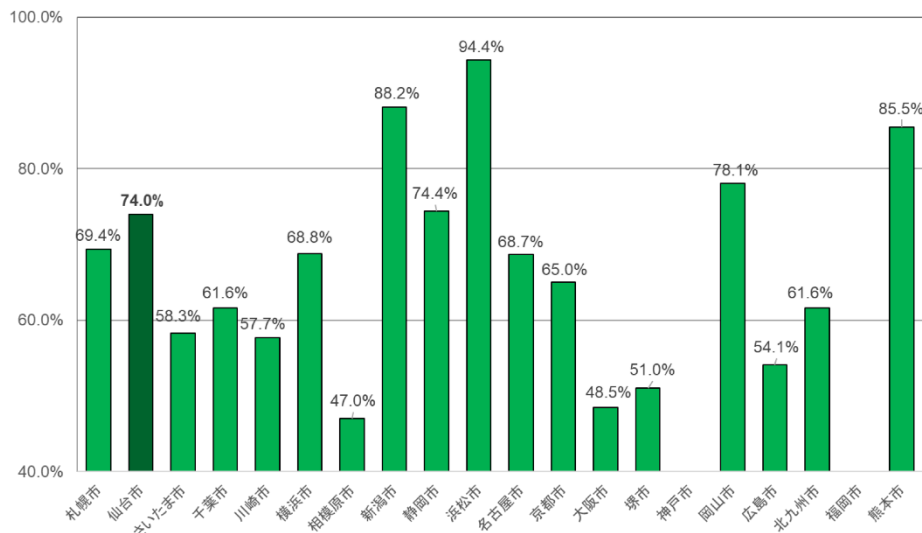
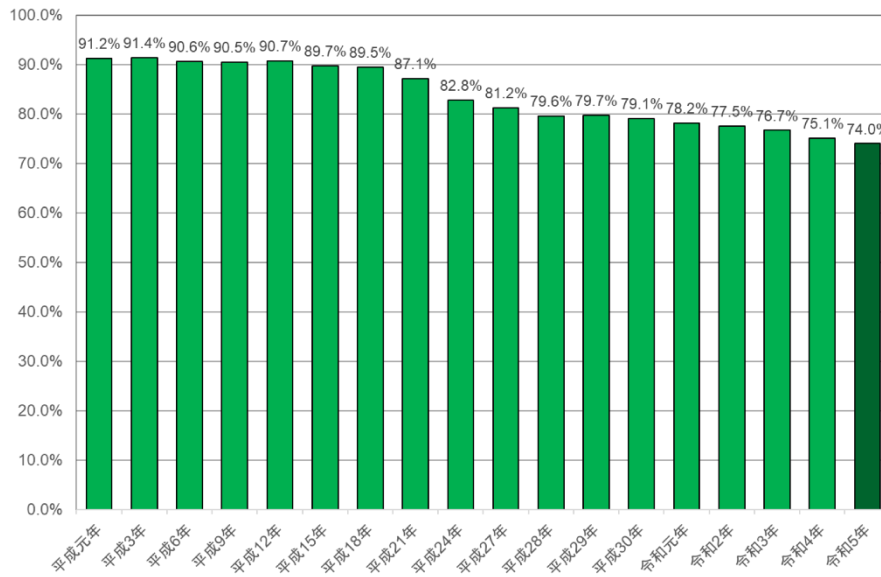
## (2)町内会をめぐる危機的な状況と仙台市の現状

- ・ 戦後, たびたび話題になってきた町内会の危機
- ・ GHQ(アメリカ占領軍)による町内会の禁止
- ・ 戦後の都市化による人間関係に希薄化
- ・ 2010年代以降の3度目の危機
- ・ 関東圏の状況



出典:日野市企画部地域協働課作成「令和5年 自治会支援の在り方に関する意見交換会」より抜粋

・ 仙台市の現状



令和 5 年 6 月調べ(仙台市の加入率は R5.6.1 現在。基準日は都市により異なる。)

※神戸市・福岡市は調査未実施。京都市はアンケート調査による参考値。

### (3)力のある町内会が陥りがちなこと

- ・ 立川市の連合町内会の例
- ・ 輪番でつとめる仕事もいつしか負担に——高齢化
- ・ やるのが当たり前という態度——若い人には通用しない
- ・ いつのまにか参加者の動員がむずかしくなる
- ・ みんなが負担なく参加する活動はどんどん変わっていく

#### (4)これからの町内会運営に求められること

- ・ 町内会が当たり前ではない, 若い世代への対応
- ・ 子どもを介して——中学生, 高校生の活用
- ・ メリットを見えるようにする
- ・ 負担を軽減する
- ・ SNS などの活用

#### (5)高齢化と担い手不足に備えて

- ・ 町内会はいざというとき必要なもの
- ・ 極論すれば, いざというとき機能するために最低限の活動でよい
- ・ 活動するなら, なによりも活動する人が楽しくできるものに
- ・ 他の活動団体に丸投げしてもよい
- ・ その地域の事情に合わせて, 多様であってよい運営スタイル